

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和5年度 第2回 川西市総合計画審議会	
事務局(担当課)		企画財政部政策創造課	
開催日時		令和5年7月6日(木) 午後6時から	
開催場所		川西市役所4階 庁議室	
出席者	委員	伊藤 嘉余子、上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、 澁谷 和正、新川 達郎、西中 哲郎、松浦 龍基、山本 利映 (敬称略)	
	その他		
	事務局	越田市長、作田企画財政部長、飯田企画財政部副部長、 稲治政策創造課長 他課員3名	
傍聴の可否		可	傍聴者数
		9名	
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会議次第		次ページに記載	
会議結果		審議経過のとおり	

令和5年度 第2回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和5年7月6日(木)

午後6時～

1. 開会

2. 議事

- (1) 第6次川西市総合計画 基本構想原案について **【資料1】**
- (2) 第6次川西市総合計画 基本計画原案について **【資料2】**
- (3) その他

【参考資料】

- ・基本計画冊子イメージ

審議経過

1. 開会

●新川会長（以下、会長）

令和5年度第2回川西市総合計画審議会を開会します。本日は水野委員がご欠席、神谷委員が遅れて参加されます。

開会にあたり、越田市長からご挨拶をお願いします。

●越田市長（以下、市長）

皆さま、先週に引き続きありがとうございます。前回いただいたご意見については、可能な限り修正しました。

特に指標に関して、市民実感を測るべきか、具体的な事業と直結する指標がとすべきか。また、実際に置いた数字と施策の進捗とが本当に結びついているのか。このあたりは非常に悩みましたので、本日も様々な視点からご議論いただければと思います。よろしく願いいたします。

●会長

ありがとうございます。それでは本日の議事に進みます。

2. 議事

●会長

本日の議事の1つ目「第6次川西市総合計画基本構想（原案）」について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

・【資料1】基本構想（原案）について

前回いただいたご指摘に関する部分を中心にご説明します。まず文字のサイズを全体的に大きくしました。また、分かりやすさという観点からページの順番を一部入れ替えました。

（1ページ）扉絵

- ・家族のイラストが、今の時代に合っていないように見える
→多様な市民が集まる様子のイラストに差し替え。
- ・右上「最初のほうだけでも読んでみて」というメッセージ
→削除。
- ・「ソフト面やハード面」という行政用語を、適した表現に置き換えできないか
→置き換えはせず、削除。

（2・3ページ）かわにしてこんなところ

- ・情報量が多く読みづらい。

→文字の詰め込みを緩和するため、情報の一部を別のページに移動することで対応。

(4・5ページ) かわにしの暮らしって、心地よい。

- ・前ページに記載していた地域資源の一部を移し、イラストに変換。(良質な住環境がある、市街地でも元気に遊べる、ファミリー層が住んでみたいと思える)

(6・7ページ) 自治を育てる。川西市が「ジブンゴト」になる。

- ・イラストでもう少し多様性を表現できないか。

→左側に子連れの人や車椅子の人を、右側にサラリーマンや家族のイラストを追加

(8・9ページ) 心地よさ 息づくまち 川西

- ・市民イラストの年齢層に偏りがある。また、文法上分かりづらいものがある。

→学生のコメントを追加し、分かりづらいと指摘のあったセリフを差し替え。

(10・11ページ) 私たちが大切にしたい思い -4つの基本姿勢-

- ・頭の数字が、続く「5つの柱」と同じで分かりづらい

→「4つの基本姿勢」はローマ数字、「5つの柱」はアラビア数字で対応。

(12・13ページ) 総合計画体系図

- ・めざす都市像、4つの基本姿勢、5つの柱の流れが分かりづらい。
- ・川西市が「ジブンゴト」になる。という要素も加えてみては。

→読み進める人が整理しやすいよう、体系図のページ位置を「4つの基本姿勢」と「5つの柱」の間に変更。また、「ジブンゴト」に関するテキストを追加。

(14・15ページ) まちのミライを支える5つの柱 -分野別の目標-

- ・頭の数字が、「4つの基本姿勢」と同じで分かりづらい。

→「4つの基本姿勢」はローマ数字、「5つの柱」はアラビア数字で対応。

(その他) 都市デザイン

- ・体裁が他のページと合っておらず、流れが分かりづらい。

→ページ全体を削除

説明は以上です。

●会長

色々な改善が図られて、体系の流れも随分見やすくなったと思います。委員の皆さまからも、ご意見をお願いします。

●上村委員

前回と比べて格段に良くなりました。特に、ページの順番。「今の”心地よさ”が続くか分からない」部分を強調した上で、「だからこそジブンゴト化して、我々で新しい川西をつくっていこう」というストーリーに落とし込んでいる辺りが、大きな改善点だと思います。

●西中会員

- ・かわにしてこんなところ

能勢電鉄が日生線と妙見線とで色分けされているのですが、見やすさの観点から区別をなくし「能勢電鉄」と統一してはどうでしょうか。

- ・自治を育てる。川西市が「ジブンゴト」になる。

6ページの一文目に主語がないので、補足をお願いします。また、7ページ右下の「無理に市外からの人口流入を求めるのではなく……市民を増やします」という表現。よく読めば矛盾はしていないものの、意味が伝わりづらいと感じました。

●会長

能勢電鉄の色や表記については、事務局でご対応ください。

6ページの一文目は「川西で活躍するいろんな主体が協働して取り組んでいる」という意味でしょうから、表現を少し調整することで疑問点が解消できると思います。7ページは「人口減少社会では”どうやって外から人を呼び込むか”という点ばかり注目されやすいが、都市そのものが魅力を持っていれば、人はおのずと定住してくれる」という主旨かと思しますので、これも調整をお願いします。

その他、ご意見ありますか。とくにないようなら次の議事に移ります。

(「異議なし」の声あり。)

それでは続いて、「第6次川西市総合計画基本計画(原案)」について事務局より説明をお願いします。

●事務局

- ・【資料2】基本計画(原案)について

前回いただいたご指摘を踏まえ、指標が小施策ごとに設定した「市民とともにめざす未来像」を表すものになっているか、という視点をベースに見直しを進めました。前回からの変更箇所は黄色に塗りつぶしています。

(以下、資料に沿って説明)

●会長

委員の皆さまからご意見をお願いします。

●伊藤委員

・小施策1～4について

子ども自身に尋ねるような指標がないのが気になりました。

・小施策5【人権・ジェンダー平等・多文化共生】

「当事者が配慮されているか」を問う内容や、「多文化共生に取り組んだ事業所の数」等、前向きな視点の指標があってもよいと思います。

●会長

子どもやマイノリティ等、当事者自身が状況改善されている、あるいはそう感じられているか。それらを実際にどのように測るかは難しいのですが、そういう取組みを指標化できないだろうか、というご提案でした。

●片山委員

・小施策1【妊娠・出産・乳幼児支援】

今回追加された指標「子育てに自信が持てない親の割合」について、問いの立て方かもしれませんが、個人的には「自信を持てる親なんていないのでは」と感じました。

●会長

自信が持てない方が減っていけばいい、ということと言えるかもしれませんが。数値目標としての捉え方が難しい部分ですが、事務局から補足があればお願いします。

●事務局

基本計画の構成として、今回の総合計画で一番大きな柱となるような指標については、冒頭に「代表的な指標」として掲げ、そこに各個別の目標が続くという形に切り替えたいと思っております。次回お見せできるよう進めますので、よろしく願いいたします。

また、先ほどご指摘いただいた指標「子育てに自信を持てない親の割合」については、新川会長にフォローいただいたように、逆説的に捉えた内容となっています。前向きな指標として適したものが見当たらず、こういう形を採っておりますが、再度検討いたします。

●上村委員

・小施策19【高齢者福祉】

指標「高齢者に占める要介護（要支援）認定者数の割合」の目標値を設定した意図としては、高くしたいのか低くしたいのか、どちらでしょうか。

●事務局

高齢化が進む中で高齢化率自体はどうしても上昇してしまうが、その幅をできるだけ抑えていきたい、という意図で設定しております。

●上村委員

「高齢者に占める要介護（要支援）認定者数の割合」はどちらかというと要介護になる前の話で、「認知症サポーターの人数」は介護が必要になった後の話ということですね。だとすると、「市民とともにめざす未来像」には、介護が必要になった後の話のみが書かれているので、この摺り合わせが必要ではないかと思います。

●会長

各小施策の内容にも関わるご意見をいただきました。特に高齢者福祉については、高齢化が進むことから介護認定率はどうしても伸びていく中で、健康寿命をどう確保していくのか。それらを踏まえた目標設定は難しいですが、再度ご検討をお願いします。今の指標を活かすのであれば、介護予防に関する記載を「市民とともにめざす未来像」へ追加する方法が考えられます。

●澁谷委員

基本計画の全体的なつくりとして、前回の総合計画や総合戦略の完了できなかった事業などを振り返り、今回の総合計画に落とし込んでみては。また、指標について、行政が出す客観的な数字と、それを評価する意味で市民アンケートによる数字とを2つずつ置いてはどうでしょうか。

・小施策9【商工振興】

商業以外にも言えますが、人が集まるにはやはり面白さがあります。そこで、指標として空きテナントの解消率であったり、店舗数などを設置する方法も考えられると思います。

●会長

これまでの総合計画で実現できなかった部分に着目して考えてみては、というご意見をいただきました。

また、指標の数が小施策によって1つまたは2つのところがありますが、そこには客観的な指標と主観的な指標とが混在しています。そこで、両方をセットにすると分かりやすいのではないかと。既にそうなっているところもありますが、統一してはどうか、というご意見でした。

商工振興については、商店街の活性化という観点から新たな指標のご提案でした。

●事務局

小施策9【商工振興】の指標について補足いたします。ご提案いただいた空きテナント等といった数値目標も検討はしたのですが、「産業ビジョン」という個別計画で、より具体的に整理していけたらと考えております。

●神谷委員

・小施策6【社会教育】

指標「公民館の利用率」について、利用者のターゲット像が気になりました。所得の差によ

って情報格差や学びの格差がどうしても出てくる中、例えば公民館を「誰もが学べる環境」や「学校以外の第三の居場所」として押し出すなど、活用方法の意図があればそれを盛り込んではどうでしょうか。

・小施策18【障害福祉】

「オーダーメイド支援プラン」が何を指しているのか、このままでは伝わらないと思います。今、兵庫県でも「知的障害等を持つ子が、親亡き後も安心して暮らせるように」という視点で力を入れている中、川西市が独自の取り組みとして進めているのが「オーダーメイド支援プラン」です。私を知る限り、県内でも川西市が先行事例なので、それが伝わらないのはもったいない。もう少し表現を工夫してみてもいい。

・小施策28【参画・協働】

追加案の指標「参画の取り組みをおこなったことがある市民の割合」について、参画の事例としてパブリックコメントを挙げていましたが、果たして「パブリックコメントが増えたから、市民が参画している」と本当に言えるのかなど。例えば「タウンミーティングの参加者数」等はどうか。

●会長

社会教育施設は、生涯学習の場としても大切なものですが、利用目標をより明確にしてはどうか、というご意見でした。利用者を絞ると実績の取り方が難しくなりますが、事務局でもご検討をお願いします。「オーダーメイド支援プラン」は、ご指摘のとおりかと思しますので補足をお願いします。参画・協働の指標については、これからのご意見も踏まえてご検討ください。

●松浦委員

・小施策31【ICT戦略】

手続きのオンライン化は国の旗振りにより全国で一斉に進められており、その国が目標として示した手続き数をそのまま川西の目標にするのは、川西市の基本計画としてあまり面白味がありません。各自自治体で既にオンライン化が済んでいる手続きの利用実績は、人口10万～20万人規模の自治体でも、せいぜい年間数件～数十件程度であるため、市民に実際に使ってもらった件数やオンライン申請の割合などを指標にしてはどうか。

・小施策3【教育保育】

指標「学習内容を理解していると思う児童・生徒の割合」については、直前の授業の印象等で回答する児童・生徒がいるなど、あまり参考にならない結果になることが予想されます。アンケートや満足度調査は、コストや手間、時間がかかる割には正確でない数値が出る 경우가多く、また恣意的な評価結果になる余地もあります。特に教育分野についてもそうですが、できる限り指標測定のためにとった数値ではなく普段の教育活動で集まるデータを指標に使うことが望ましいと思います。

そのうえで、あくまで個人的な思いですが、市立の小中学校に関して言えば、子どもが元気に学校に通って、しっかり遊んで勉強して、成績が上がれば言うことはありません。ということで例えば「不登校の児童数」という指標はどうでしょうか。アンケートと違って曖昧な数字にはなりませんし、学校教育全体にとっても意義のある項目だと思います。あともう1つくらい例を挙げると、全国学力テストの順位、でしょうか。測定しやすい客観的な数値という観点から、この2つを提案します。

・その他（人口を指標に設定することについて）

市長のお考えでは、他の自治体から住民を引っ張ってくることを必ずしも望んでいないとお話でしたが、少子高齢化や人口動態、街づくり、子育て支援、諸々の政策を総合的に見ても、やはり、人口が増える（≡他自治体よりも減少度合いが緩やか）という結果になれば、それだけ住みやすいまちづくりができています、という考え方もできるのではないのでしょうか。

●会長

ICT活用については、環境の整備を目標にするよりも、その先、市民の利用件数で考えてはどうだろうか。また、教育については、文科省の調査自体が客観的な指標として疑問が残るので、他に置き換えられないだろうか、というご提案です。

最後のご提案は、小施策よりも上位に置く目標として相応しいかもしれません。人口も目標立てが難しいですし、はたして増えるのがいいのか、という別の議論もあるので、皆さんからのご意見をいただきたいところです。

●市長

・小施策31【ICT戦略】

この指標は我々も議論を重ねたところです。仮に利用件数を指標とする場合、事実上ゼロに近い実績を目標としてどのように設定すればよいか、という部分が解決しなかったため見送っています。例えば、庁内の手続きのうち、50%がオンライン化されている等、数よりも割合で示すことは考えられると思います。

・小施策3【教育保育】

仮に不登校である子の数を指標とすると、減らすのが望ましいかのように映るため、これは難しいと考えています。学校に何らかの理由で来られない子どもでも、学校とつながりを持ち学ぶ場が保障されているのであればそれでよく、我々はアクセスできない子どもをゼロにしていこう、という思いを教育長とも共有しています。

学力テストについても、現場の先生にプレッシャーをかけてしまう恐れがあるので、我々としては、平均点を上げるよりも取り残さない教育が必要だ、という考えです。ただ、松浦委員が仰るようにアンケートの信頼性も確かに重要で、今後、国も含めて検証が必要なるだろうと思います。

・その他（人口を指標に設定することについて）

人口については、人の価値感に直結する部分もあります。仮に「人口を増やす」という目標を立てた時、産む・産まないは個人の自由ですから、あまり過度な数値は設定できません。全国的に人口が減っているのに近隣市町から「取ってくる」という発想も、まちのあり方としては疑問が残ります。ですので、統計上、人口が減るという流れは一定やむを得ないということを受け入れた上で、今いる市民が幸せになることが大切だと考えます。

一方で、結果的に「若者に選ばれている」といえる状態は組長としても望ましい姿なので、慎重に検討したいと思います。ありがとうございます。

●山本委員

・小施策3【教育保育】

不登校や登校渋りの子の声が拾える指標があってもいいのかなど。難しいとは思いますが、例えば「学校やそれ以外の環境で居場所があると感じているか」等、子どもが主体となる問いです。

また、指標「学習内容を理解していると思う児童・生徒の割合」の最終目標値が100%となっている点について、前回私が提案したことで数字を上げていただいたのかと思いますが、現場の先生に圧力や負担をかけてしまいかねないので、少し余白を残してはどうかという提案です。

・その他（基本計画部分の見せ方について）

基本計画部分は、【資料2】にあるような一覧表のまま載るイメージでしたでしょうか。「関連する主な計画」まで記載があるのだろうか、と感じました。

●会長

子ども一人ひとりを大切にする視点と、それに見合った目標立てはやはり重要な考え方だと思います。【資料2】の見せ方について、事務局からもう一度ご説明をお願いします。

●事務局

【資料2】の最終的なアウトプットについて補足いたします。一覧に記載の情報は、【資料2参考】でお示しするレイアウトに反映する予定です。なお、「関連する主な計画」は、総合計画に全ての事業を詳細に記載することは難しいため、該当する個別計画を案内する意図で記載しています。

●西中委員

・小施策23【公共交通】

今回更新されたモビリティマネジメントの注釈が分かりづらいので、国土交通省の定義を元に調整してみてもは。また、指標「川西能勢口駅の乗降客数」について、生産年齢人口が減少傾向にある中での目標値設定は難しいのではないのでしょうか。

・小施策12【地域防災】

指標の追加案「ひょうご防災ネット（スマートフォンアプリ）登録者数」の最終目標値が少ない印象を受けるので、市民に対して防災情報をしっかり伝えていくという考え方と、この数字とがマッチしているのか、という点は再度ご検討いただけたらと思います。

●会長

モビリティマネジメントの表記と乗降客数について、ご検討をお願いします。防災アプリについては、80%以上の方が何らかの電子機器を使っている時代ですので、登録自体が当たり前になってくるかもしれません。もちろん、川西独自の防災情報をどうしていくか、という議論もあるでしょうが、指標とあわせて改めてご検討をお願いします。

●山本委員

・小施策19【高齢者福祉】

全国的に、老老介護で共倒れになってしまう問題をよく聞きます。どの施策にも言えますが、当事者が情報にアクセスできたり、声を上げやすいという部分を測る指標があってもいいのではと思いました。

●会長

個別の「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」等ではそうした方策について色々と触れているとは思いますが、高齢者の方が声を上げやすい、あるいは声をかけてもらいやすい指標があれば、ぜひご検討ください。

●神谷委員

・小施策18【障害福祉】

障害福祉では、本来は精神疾患やうつ病、難病の方も支援の対象に含まれるのですが、「障がい者」とだけ書かれていると、当事者が見ても認識できない可能性が高いです。ただ、文章が長すぎても分かりづらい。難しいところですが、一つの意見としてお伝えします。

●会長

ご指摘のとおり、当事者を取り残さないような表現や目標設定は重要かと思しますので、事務局で検討をお願いします。

●松浦委員

・小施策12【地域防災】

ヤフー防災アプリなど様々な媒体がある中で、単純に「ひょうご防災ネット」の登録数を増やすことが未来像の実現に結びついているか、という点は疑問です。

・その他（市民アンケートの手法の提案）

市公式LINEを活用し、登録者に対して月1回簡単なアンケートをおこなうのはどうでしょうか。大量のアンケート用紙が届く方法に比べ、回答者の負担が少なく、市民のニーズや実

態を把握しやすいのではないかと。

●会長

アンケートを、モニター調査のようにもう少し簡便な方法にすることで回答が集まりやすくなるのでは、という貴重なご提案でした。

●事務局

松浦委員が言われたLINEアンケートの活用は盲点でしたので、検討したいと思います。

●上村委員

参考までに、大阪市では「市政モニター」を募集しているようです。

●会長

一つの媒体に限定せず、いろいろな媒体から防災情報を受け取れていけばよし、とする考え方もあるかもしれませんね。

●山本委員

・小施策9【商工振興】

指標「市内総生産額」の中間目標値ですが、人口が減る中で上向きの数字を置いているので、根拠が気になりました。

●事務局

ご指摘のとおり、人口減少を踏まえると基本的には減少していきます。ただ、令和4年から9年にかけては様々な事業の実施により減少を食い止め、増加していきたい、という意図だと確認しております。後半の令和9年から13年については、人口減少の中でも生産性を上げ、どうにか維持したいという考えです。

●神谷委員

・小施策5【人権、ジェンダー平等、多文化共生】

指標について、もう少し踏み込んだ内容は追加できないでしょうか。例えば、男女共同参画であれば男性の育児休業率。人権、ジェンダーの部分では「同性パートナーシップ宣言」の申請数など。

●会長

男性の育休取得や同性パートナーシップ宣言の申請数なども、総合計画の指標としてご検討をお願いします。

本日は、特に指標について、それぞれの小施策で掲げる「めざす未来像」に対応しているか、という観点で様々なご意見をいただきました。事務局でも、各指標を設定した根拠を説明できるよう整理していただければと思います。

それでは、追加してご意見がなければこの議事は以上にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございます。事務局から補足をお願いします。

3. その他

●事務局

長時間にわたりご議論いただきありがとうございます。当審議会では、最後に皆さまから答申をいただく形となります。会長にご相談しながら答申案を策定した後、皆さまにご案内する予定ですので、よろしくお願いいたします。

●会長

皆さまのご意見を踏まえた答申案を私と事務局とでまとめ、それをもって7月10日に答申という形で進めたいと思います。答申の方向性として、基本構想・基本計画の枠組み自体はそれほど変える必要はないかと思いますが、細かなレベルで検討中の部分もありますし、議会での議決もございますので、それらも踏まえて、実際に実行できる計画に仕上げてください。

それでは、本日の審議は以上となります。この3年間、委員の皆様方にはとても熱心にご議論いただき、計画の中身が充実していったなと改めて感じています。まだまだこの議論を続けたい気持ちもあるのですが、まずは皆様方にお礼を申し上げ、事務局にお返しします。ありがとうございました。

●事務局

今回の審議会（答申）は7月10日(月)18時から、市役所4階庁議室でおこないます。最後に、市長よりご挨拶申し上げます。

●市長

今日も、長時間にわたる熱心なご議論をありがとうございました。先ほど会長からも温かいお申し出をいただきましたが、我々としても、計画をつくり上げた後も常に議論できるパートナーとして、これからも力をお貸しいただきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

●事務局

以上をもちまして、令和5年度第2回総合計画審議会を終了します。ありがとうございました。